

三女優初の姉妹役で

至芸なる魂の競演

櫛の木坂 四姉妹

「わたし達の毎日からは
一度も八月九日が消えたことがなかとよ」

中村たつ
岩崎加根子
川口敦子

河原崎次郎
武正忠明
脇田康弘
平田朝音
若井なおみ
小澤英恵
齊藤奈々江
森根三和

作=堀江安夫

演出=袋 正

《美術》内山 勉
《照明》森脇清治
《効果》田村 恵
《衣裳》若生 昌
《方言指導協力》長崎市民劇場
《舞台監督》関 裕麻
《制作》山崎菊雄

【日時】 6月10日(火) 18:30

【会場】 呉市文化ホール

入会のお申し込みは 入会金(1,000円)+2ヶ月分会費を添えて呉市民劇場事務局までお申し込みください
口会費(月額) 一般 2,400円 学生 1,300円 高校生以下 1,000円
呉市民劇場事務局(呉市本通2-5-1グローバル本通103号) TEL0823-22-4516 後援/呉市教育委員会

榎の木坂 四姉妹

作 堀江安夫

演出 袋正



中村たつ



岩崎加根子



川口敦子



平田朝音



若井なおみ



小澤英恵



齊藤奈々江



森根三和



河原崎次郎



武正忠明



脇田康弘

〈美術〉内山 勉
〈照明〉森脇清治
〈効果〉田村 恵
〈衣裳〉若生 昌

〈方言指導協力〉長崎市民劇場
〈舞台監督〉関 裕麻
〈制作〉山崎菊雄

死者が現在を生きる者の支えになる、ということが往々にしてある。遣り方は土地や風習で様々に違えど、どの民族もが先人の霊に敬虔な祈りの場を持っているのは、遙か昔からそのことを承知して来たからだろう。

この作品は長崎のひとつ屋根に身を寄せ合って生きる老三姉妹の物語だ。しかし敢えて「四姉妹」としたのは、原爆で命を奪われた三女が、ある時は彼女等の行動を縛ったり、またある時は励まし慰めたりと、今尚くつきりと共に生きているからに他ならない。

堀江安夫

その坂道は榎の木坂と呼ぶ。長崎港を望む坂の中腹に樹齢数百年を超える榎の老木があるからだ。人々はその威風をたたえ、神木として保存してきた。だがその老木も一九四五年八月九日の原爆投下で息絶えてしまったと思われたが、翌年の春、一枚の葉を芽吹かせた。今では道端からこの物語の舞台になる葦葉家の庭先までみごとに葉群を広げていた。

二〇〇〇年、長崎は夏を迎えようとしていた。被爆者である三姉妹の生活を撮り続けてきたカメラマンの洲崎はその日、部屋のパianoについて尋ねる。

それは四女が双子の姉三女の供養のために購入したものだ。あれから五十五年、ピアノの調べは若かりし四姉妹が暮らしていた頃へ誘っていく。

新劇を代表する中村たつ、岩崎加根子、川口敦子が競演する堀江安夫渾身の書き下ろしを、長崎に魅かれ続けてきた袋正が演出する。河原崎次郎、武正忠明等が加わり豪華な出演者が織り成す俳優座ならではのアンサンブルにご期待ください。